

チャイコフスキー国際コンクール優勝  
ギルモア・アーティスト賞最年少受賞  
国家功労勲章シュヴァリエ受章、パリ五輪開会式で演奏  
グラモフォン・クラシック音楽賞受賞  
未だ20代ながら、紛れもない世界最高峰のひとり

# ALEXANDRE KANTOROW

## PIANO RECITAL

22歳でチャイコフスキー国際コンクール優勝を飾り、2023年には世界中の様々なクラシック音楽関係者が匿名でノミネートされた候補者を評価し4年に一度発表されるギルモア・アーティスト賞を史上最年少、またフランス人として初めて受賞、雨中となったパリ五輪の開会式で世界に向けて演奏を披露、これまでに共演したオーケストラはソビエト指揮ベルリン・フィル、クルレントイス指揮SWR響、ネゼ＝セガン指揮MET管など…これほどの経歴を持つアレクサンドル・カントロフが未だ20代だということだから、未恐ろしい。

だが本当に驚嘆すべきは、その音楽だ。奏でられる音色は驚くほどクリアで輝きを放ち、それを駆使して繰り広げられる音楽はまさに異次元のもの。何か奇をてらうようなことは一切無く、むしろ作曲者・作品に対する彼の敬意は感動的なほどで、その結果生まれるものはかつてないほど崇高で圧倒的。彼の演奏を一度でも聴けば上記の経歴に納得するどころか、それらはもはや重要でなく、ただただその魔法のような時間に夢中になる一筆舌に尽くし難い無二の体験をもたらしてくれる、それがカントロフの音楽である。

すでに世界中から引っ張りだこのカントロフの演奏を直接耳にすることができる機会は、今後ますます貴重なものになっていくのに違いない。すべてのピアノ愛好家、音楽愛好家に、ミュージア川崎の極上の音響で聴けるこのチャンスを逃さぬよう伝えたい。

**“カントロフはリストの生まれ変わりだ。私は、彼のように楽器を操り、これらの作品を奏でるピアニストを他に知らない”**

Jerry Dubins (『ファンファーレ』誌)

**アレクサンドル・カントロフ (ピアノ) Alexandre Kantorow, Piano**

22歳で挑んだ2019年のチャイコフスキー国際コンクールにおいて、フランスのピアニストとして初めて優勝。

今やフランス・ピアノ界のホープとして定評のある彼は、早くに演奏活動を開始。16歳の時、ナントとワルシャワのラ・フォル・ジュルネ音楽祭から招かれシンフォニア・ヴァルソヴィアと共演して以来、数多くのオーケストラからソリストとして招かれており、ゲルギエフ指揮マリインスキー劇場管、パッパーノ指揮シターツカペレ・ベルリン、クルレントイス指揮SWR響、そしてパリ管、ミュンヘン・フィルなどと共演を重ね、昨シーズンはベルリン・フィル (ソビエト指揮)、ピッツバーグ響、そしてBBCプロムスにデビューした。今シーズンはネゼ＝セガン指揮MET管と初共演する。

またアムステルダム・コンセルトヘボウ、ベルリンのコンツェルトハウス、フィラルモニー・ド・パリ、ニューヨークのカーネギーホールなどの一流ホールで演奏を披露し、ラ・ロック・ダ

ンテロン国際ピアノ音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、ラヴィニア音楽祭などの著名な国際音楽祭に出演している。2022年、ヴァイオリニストのL.ペトロヴァとチェリストのA.バスカルと共に、「ニーム国際音楽祭」の芸術監督に就任。

録音では、デビュー・アルバム『A la russe』(BIS)が、クラシカ誌の年間最優秀シヨク賞に輝き、ディアパゾン誌、ピアノニュース誌の特薦盤に選ばれるなど、広く注目され高い評価を得た。BISレーベルからはリストやサン＝サーンスのピアノ協奏曲集のほか、『ブラームス、リスト、バルトーク』アルバム(2020)を録音しディアパゾンとシヨク賞を2年連続で受賞。最新盤の『ブラームス:「ソナタ第3番」「左手のためのシャコンヌ」「4つのバラード」』もディアパゾンと獲得した。

2019年、フランス仏批評家協会賞の年間最優秀新人音楽家部門を受賞。2020年には、先述のサン＝サーンスの協奏曲アルバムで、フランスの最も権威ある音楽賞「ヴィクトワール・ド・ラ・ミュージク・クラシック」の2部門(年間最優秀録音部門/年間最優秀器楽ソリスト部門)を同時受賞するという快挙を成し遂げた。2023年にはフランス人として初めて、そして歴代最年少で国際的に最も権威のある賞のひとつ、ギルモア・アーティスト賞を受賞。また2024年には国家功労勲章シュヴァリエを受章。

さらに2025年には、BISレーベルからリリースした最新アルバム『ブラームス&シューベルト』が、英国の権威あるグラモフォン・クラシック音楽賞にてピアノ部門賞を受賞し、カントロフの芸術的評価をさらに確たるものとした。

©Sasha Gusov